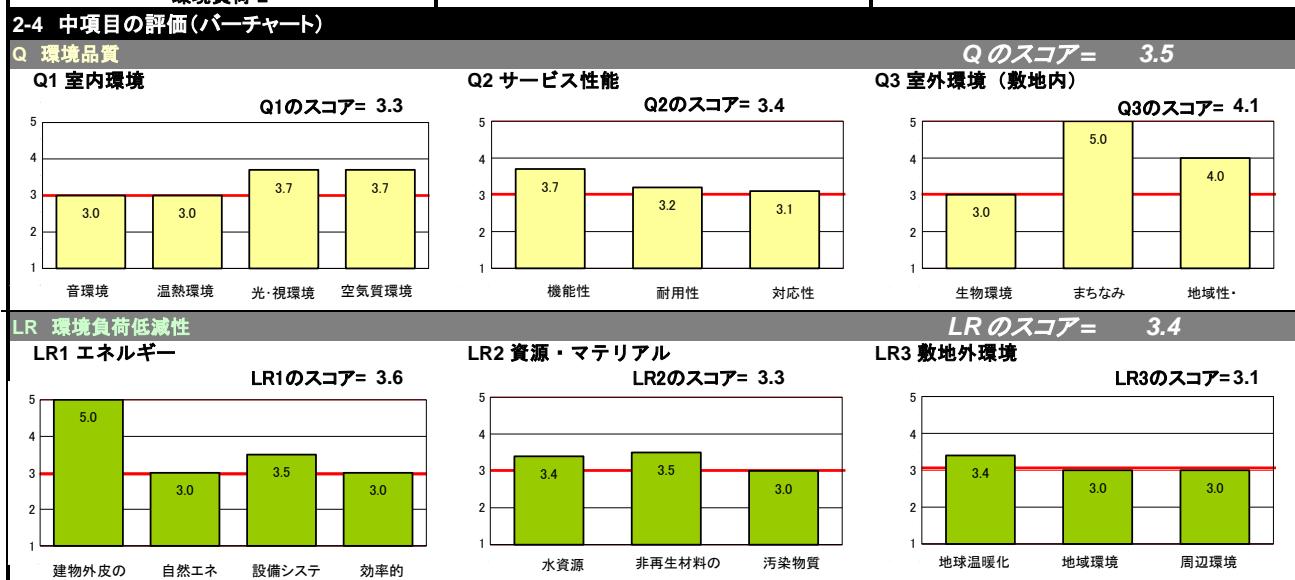
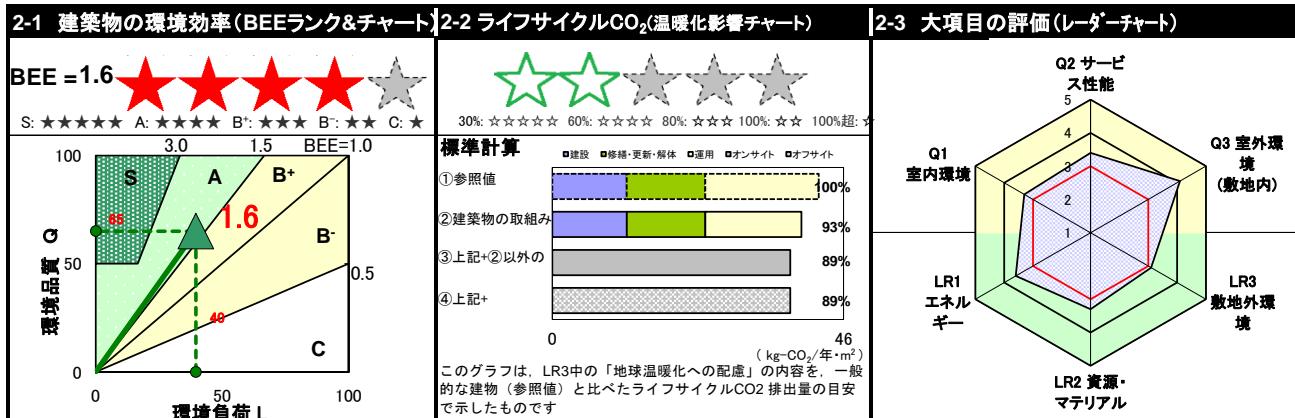


CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市立下京雅小学校	階数	地上4F
建設地	京都市下京区醒ヶ井通松原下る篠屋町59番地ほか	構造	RC造
用途地域	商業地域・準防火地域	平均居住人員	750 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年6月25日
敷地面積	7,547.72 m ²	作成者	井上弘一
建築面積	3,148.42 m ²	確認日	2018年8月8日
延床面積	7,521.64 m ²	確認者	井上弘一



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
自然通風・自然採光を徹底するため、通り庭を設けた2棟構成とし、片側廊下・廊下の両端に開口部を設ける計画をしている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
校舎棟は普通教室の南面を逆梁架構として、開口部の確保を工夫している。 廊下との間仕切りにスリット開口を設け一年を通して室内	地域利用に配慮したバリアフリー対応と景観規制の中で階構成ができる限り天井を高く確保することにより、空間性の演出に配慮している。	周辺の景観になじむ屋根形態と木ルーバーによりグレアの制御を計画しました。 既存の桜を残存しながら沿道緑化を計画している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁開口部は基本的に複層ガラスサッシとし特に開口の高い西側についてはLow-e複層ガラスとしている。	雨水利用・太陽光発電の「見える化」を随所にも活用できる計画としている。 節水型衛生器具の採用。	グラウンドの砂埃が周辺に影響しないように南側を意匠堤とし、ポール等が敷地外にでることがないよう防球ネットを計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される